

令和8年度 第1回川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会
会議録

日 時 令和8年7月28日（火） 午前10時00分～午前11時40分

会 場 キュポ・ラ本館 7階
メディアセブン プレゼンテーションスタジオ

審議参加者 【委 員】宮田郁実、海老原和江、杉浦真美、江連俊隆、中山浩二、遠山正子、八木橋真理、小金澤智佐子、浦素子、豊田友美、高橋義樹、吉野浩一

【事務局】井上教育長、太田教育総務部長、谷田部中央図書館長、田口新郷図書館長、川野横曽根図書館長、菊地戸塚図書館長、本多鳩ヶ谷図書館長、中央図書館小林庶務係長、宮崎サービス第1係長、畠中サービス第2係長、竹田副主幹、茂出木主査、橋本主査、木梨主任

欠 席 者 【委 員】熊木義尚、竹本佳標、片倉有紀
【事務局】萩原前川図書館長

議 題

ア 令和7年度図書館及び映像・情報メディアセンターの利用状況と事業報告について

イ 「川口市子ども読書活動推進計画（令和3年度～令和7年度）」の令和7年度における取り組み内容・実施状況について

ウ 「川口市子ども読書活動推進計画（令和8年度～令和12年度）」について

1 委嘱書交付式

2 開会

3 教育長挨拶

4 委員・職員自己紹介

5 会長、副会長選出・挨拶

会長に宮田委員が、副会長に海老原委員が、出席委員の互選により選出された。

6 議長選出、会議成立の宣言と会議録署名委員の指名

川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第1項により会長が議長となった。

議長は、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第2項により定足数を満たしたことにより、会議の成立を宣言するとともに、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会規則第4条第2項により会議録署名人として海老原副会長を指名した。

また、「川口市附属機関等の会議公開に関する要綱」の規定に基づき、この会議は公開である旨を宣言し、公募の結果、傍聴人が0名であったことを報告し、議事を開始した。

3 議事

○ 議題アについて、資料1に基づく

[意見・質問と回答]

委員

11ページで、子どもを対象とした活動に力を入れているのは分かるが、高齢化社会に向けて、成人向けの活動は何か考えているのか。

事前に数値目標を定めて、それに対して達成度合いがこの数値なので、「達成」なのか「未達」なのかを判断する方法もあるかと思うが、これについてはどうなのか。

事務局

現在は主に小さい子どもやその保護者を対象にした事業を中心に行っており、他の世代向けのものは未定となっている。

数値目標については設定していないのが現状である。配布した資料では、参考となるよう前年度の数値を掲載し比較している。

意見については今後の参考とする。

委員

17ページ、横曽根図書館では「中学生から大人向けのおはなし会」を開催している。きっかけは中学生・高校生に図書館に来てもらいたいということで始めたが、大人の方もたくさん参加しているので、興味があれば是非参加していただきたい。

委 員

8 ページ「(5) マイクロフィルムの資料所蔵実績」について、利用実績はどうか。

10 ページ「音訳カセットテープ」の製作数がすべて0となっているが、今後はどうなのか。

10 ページ「③前川図書館図書修理」は、市内の図書館全体を集約した実績なのか、それとも前川図書館だけの実績を掲載したものなのか。

事務局

マイクロフィルム資料の利用実績は、利用はあるものの利用数はかなり少ない状態である。

「音訳カセットテープ」については、現在は新規で製作はしていない。その代わりDAISY図書の製作をメインで行っている。

「③前川図書館図書修理」については、活動場所が前川図書館となり、こちらで市内の全図書館の書籍を修理している。

委 員

4 ページ「②読書案内・レファレンス統計」について、中央図書館分において、一時閉館していた令和6年度に比べて7年度の件数が減少しているが、理由はあるのか。

事務局

こちらの統計はカウンターや総合案内等でのレファレンス調査相談や、簡易的な読書案内、利用案内についての数値となっている。最近は窓口で相談される件数が少なくなったように感じている。また総合案内カウンターを閉める時間帯を設けることとしたので、これらにより件数が減少したものと考えている。

他に意見・質問なし

○ 議題イについて、 資料2に基づく

[意見・質問と回答]

委 員

「ファーストブック」について、市民課が担当となっているが、この事業について、図書館はどのように関係しているのか。

事務局

「ファーストブック」で渡す本の選書リスト作成している。また、ファーストブックを渡す際に、図書館のPRチラシを一緒に渡してもらっている。

委 員

私は図書館でボランティアとして関わっているが、乳児を対象にした講座が増えてきている。ファーストブックを渡す際、図書館が関わっていればより図書館への来館を勧め易いのではないか。

出生届提出の際にファーストブックを渡しているが、提出時は出産直後で色々大変なため、3か月後等、もう少し落ち着いた頃に保護者に図書館に来てもらい渡すのもよいのではないか。研究結果にも出ているが、乳児期の絵本の存在は大切である。また、ファーストブックを渡す時というのは乳児が図書館と繋がれる絶好の機会である。

他自治体では、図書館がファーストブックを渡しているところもあると聞く。どの乳児にも渡せるという絶好の機会において、もう少し図書館とも繋がれるとよい。

事務局

ファーストブックを通して子どもと図書館との関わりを深めていけないか、今後の参考にする。

事務局

戸塚図書館では、東川口駅前行政センターが近いことから、以前からおはなし会のチラシを配布してもらっている。先月から、出生届の提出時にファーストブックを選択した方へ絵本を渡す際に、一緒におはなし会のチラシの配布もお願いしている。それにより、絵本に興味を持った方へ戸塚図書館の開催事業の存在を知ってもらうことで、参加者増の効果を見込んでいる。効果については開始したばかりのため、現時点では把握していない。

委 員

川口市立高等学校は図書館とも連携しているため、生徒の学力向上にも役立っている。今後も是非連携を深めていくとともに、図書館が更に充実し、この先、高齢者が増えた時にも対応できるよう、予算や人員配置等を充実させて欲しい。

委 員

1 ページの子育て支援課が「子育てサポートプラザ」「子育てひろばぽっぽ」でおはなし会を実施しているとあるが、児童センターや鳩ヶ谷こども館でも、おはなしボランティアが月1回、あるいは2か月に1回おはなし会を行っている。南鳩ヶ谷地域子育て支援センターでもボランティアの方が、こういった活動を行っていると聞いているので補足させていただく。

委 員

いずれも素晴らしい取り組みでよいと思っている。８ページ「イ 教職員全員で取り組む姿勢の確立」の「◎学校図書館司書の活用」については、学校への司書の配置は単独配置が望ましいと思うが、資料には単独配置は９校、１人２校配置が７０校とある。今後、この単独配置は増えていくのか。

同じく「ウ 子どもが読書により親しむことができる環境の整備」の「◎電算図書システム導入の推進」で、電算図書システム導入済みが６７校とあるが、全小中学校で導入済みなのか、あるいはまだ未導入の学校があるのか。

事務局

学校図書館司書について単独配置校が増えていくのかということだが、以前に比べると増えてきてはいるが、所管が指導課のため、今後については図書館では把握していない。

電算図書システムは、現段階では全校には導入されていない。

他に意見・質問なし

○ 議題ウについて、 資料3に基づく

[意見・質問と回答]

委 員

2 ページ目の上から 5 行目に、「民間企業・団体と共同イベントを開催する」とある。川口駅西口に市立美術館ができたことや、戸塚図書館実施事業で「美術館へいこう」というテーマ展示も実施されていたようなので、是非、図書館と美術館、メディアセブンとで、共同イベントを実施できたらよいのではないか。立地の関係も近いことから、例えば原画展等、何かアートのコラボができたなら、実施を通じて子ども達や大人にとっても何か繋がりを持った事ができるのではないか。

事務局

中央図書館でも市立美術館が開館するので、美術関係の本の展示を行い、美術館のアピールをする形で連携を取っていた。今後も機会を見て連携を考えていきたい。

委 員

学校と図書館とで連携しているのはよくわかった。高齢者や単身者向けのイベント等も必要かと思う。

また、パスファインダーや調べ案内を見直しして、情報更新されていることはとてもよいことである。

資料1の独自事業として、「本の福袋かわぐちラッキーバッグ」があるが、利用者へ新しい本への意識付けにつながる事業だと思う。例えば市内全館同時開催により、この事業を盛り上げてみてはどうだろうか。各館連携して評価をするなど、今後も続けていただければと思う。

事務局

この事業は利用者にも好評なので、同時期ではない時もあるが、中央図書館以外の各地域図書館でも実施している。

委 員

この事業の実施状況はどうか。

事務局

中央図書館の7年度の実績は、それぞれ3冊入りで、一般向けは41袋、子ども向けは5年齢帯で10袋ずつ用意して合計50袋、全体で91袋の貸し出しをした。

委 員

川口市子ども読書活動推進計画の2ページのところに、「3 本市の子どもの読書状況と課題」というところで、小学生と中学生を対象にした読書が好きかという調査の回答に対して、本市と埼玉県を比較してみると、中学生については少し差がある。図書館との連携でも、学校連携事業の出張ブックトークや出張おはなし会、出前授業等でも実績は小学校との連携が多く、中学校との連携については少なく感じる。中学校との連携事業を新たに実施していかないと、計画の指標の61.0%に達するのは難しいと思う。中学生向けの事業は何か考えているのか。

事務局

事務方として中学校との連携は強化していきたいと考えている。小学校に出前授業で訪れた時には、小学生は図書室を頻繁に利用しており、読書離れの状況は以前と比べてさほど変わっていないと感じた。

中学校では朝読書の時間がなくなった学校が、ここ数年で増えているため、中学生が本を手にとらなくなり、読書離れが起きていると実感している。

今後は中学1年生との連携を充実させていくため、出前授業をいくつか考えている。また、芝中学校で各学年に対してブックトークを行ったが、参加した生徒たちはとても楽しんでおり、新たな連携の仕方が見えてきたと感じた。

委 員

資料3の4ページ「学校連携事業について」の「④出前授業」に実施例として「お気に入りの本でポップをつくろう!」「本の分類について知ろう」とある。私も先日、中央図書館のイベントに参加して本のしおりを作成した。こうしたものを中学生向けの出前授業で実施すれば、本を読むきっかけづくりになると思う。

委 員

ビブリオバトル普及委員会の関東地区の普及委員をしており、是非川口市でもビブリオバトルを行って欲しいと思っている。昨年の全国中学ビブリオバトル全国大会、埼玉県代表は川口市の中学生だった。

また、毎年12月に「図書館と県民のつどい埼玉」があるが、そこでも中学生のビブリオバトルをやっているので、是非、学校や図書館でビブリオバトルを盛り上げてほしい。

また、本を読んでほしいというのは分かるが、そもそも図書館に来てくれないと本を読まない。まずは図書館に足を運んでもらう取り組みとして、最近だと公共図書館でもボードゲームを使ったイベントや、本を使ったゲームを実施した例もある。まずは図書館に足を運んでもらうことを目的としたイベントや活動をしてはどうか。

委 員

川口市子ども読書活動推進計画の 7 ページ「エ 小学校・中学校への支援」とあるが、是非、児童館にも、様々なチラシやおすすめの本の情報等がもらえると子供たちも目に触れる機会が増えるのではないかな。

こども家庭庁ができてから、児童館が小中高校生までの居場所となるように力を入れているため、図書を通して居場所に繋がるようなコンセプトがあってもよいのではないかな。

鳩ヶ谷こども館の図書室で小学生が本を借りていくのはそれほど多くはないが、熱心な保護者が子どものために本を借りている。しかし、幼児期に読み聞かせをしても、成長していくにつれそれが繋がっていかないように思う。保護者自身が本を読んで楽しみ、自ら読書にいそしむ姿を子どもに見せることにより、子どもの読書にも繋がっていくのではないかな。

また、計画目標の 5 年後の中学生の成果ということであれば、現在の小学 1、2 年生ぐらいを対象として、先を見据えて取り組みを実施すべきではないかと思う。

意見・質問なし

[その他の意見・質問と回答]

意見・質問なし

以上